

6. まとめ

ここまで、東京都内 40 歳～79 歳の集合住宅 3 階以上の居住者による「現代の水運び」について実態を明らかにしてきた。本調査における知見は以下の 7 点にまとめることができる。

- ①「主に水道以外の水を飲む」と「水道以外の水しか飲まない」を合わせた「非水道飲用者」が 54.9%存在する。これは水道水に満足していないと言えるだろう。
- ②こうした水道水への不満者は「市販のボトルドウォーター（ペットボトル）」を入手しており、78.5%となっている。
- ③「宅配（生協等）」「通信販売（テレビショッピング、ネット通販等）」で「市販のボトルドウォーター（ペットボトル）」や「ウォーターサーバーの水」を入手するケースが回答者の 27.2%にのぼる。普段の買い物で「通信販売」を 43.3%が、また「宅配（生協等）」も 21.8%利用している。
- ④水を入手することに負担感を感じる人が 31.3%いる。その理由は「重さ」にあり、店舗までの距離の遠さにはない。
- ⑤高齢になるにしたがって、水入手の負担を感じる人が多くなるわけではない。
- ⑥将来の買い物環境に不安を感じている回答者が 30.1%いる。
- ⑦81.1%の人が水道水以外の水をやめた後、水道水を飲むと答えている。

以上を平易に語ると、次のような物語になるのだろう。

現代の都内集合住宅居住者は水道飲用水に不満をもっているために、ボトルドウォーター一等を入手し「現代の水運び」を行っている。そして、その「重さ」（遠さではなく）を嫌って、通販や宅配を利用している人も約 2 割にのぼっている。しかし、その「水運び」も買い物という「習慣」の一環として認識されると、「不便」と認識されていない可能性もある。さらに、高齢になるほど「水運び」をする居住者が減るというわけでは必ずしもない。こうした「水運び」をやめようと思っている集合住宅居住者のうち 8 割は、水道水飲用者に戻るが、2 割弱の人は戻らない。

このように「現代の水運び」について調査した結果、「少なからぬ人が集合住宅で水道水を飲んでいるはずだ」「年齢を経るにしたがって買い物に不便を感じ、水運びをしなくなる」というわれわれの事前予想とは異なる結果が導かれた。集合住宅における水道飲用水の満足度も予想以上に低いことがわかった。さらに「現代の水運び」と呼ぶべき、水の買い物・運搬についても、「様々な不便さ」が背景にあることが推察されることから、その内容を一つ一つ解きほぐすことが次の課題ではないだろうか。

今後、東京に限らず都市部においては少子高齢化や独居化が進むであろう。文化とは問題がある状況に秩序をもたらすルールである。ならば、水道水に不満で水運びをする行動も現代の水文化に違いない。それは、郷愁をもって語られる過去の水文化とは異なるかもしれない。しかし、この実態こそが現代の都市生活である。このような新たに生まれる水文化をも射程に入れて、調査を継続することが必要であろう。